

第2回懇話会における意見の概要について

主な論点： ●勾当台公園の将来像と目指す姿について
●公園機能と空間整備

議事	主な意見(要旨)	
(1)アンケート調査実施報告	<p>○次回調査する際に「どこから来ましたか」、「どこ行きますか」の設問があれば、もう少し広域的な話も見えてくる。(姥浦委員)</p> <p>○人流の大小を把握していく必要がある。地下道の動線は非常時のサブ動線として、選択肢としておく必要がある。(渡部座長代理)</p>	<p>○利用されていない方に使わない理由を聞いて、その改善により来ていただける広場にすることが可能ではないか。(高山委員)</p>
(2)検討事項	<p>●利用者像と利用シーン</p> <p>○散歩、弁当といった当たり前のことができる空間、目的化していることが大事。さらに利用者が新しい何か起こす場であることがこの公園の性格であることが大事。(渡部座長代理)</p> <p>○仙台市にふさわしい夜景デザイン、居心地よく夜を楽しめる場所にする必要がある。朝・昼・夜のシーンを入れてほしい。(本江座長)</p> <p>●目指すべき姿・再整備に向けた3つの広場の方向性</p> <p>○イベントがないと誰も利用しないスペースになるのが欠点。イベントがないときに人が集まるような仕掛けが必要。(高山委員)</p> <p>○固定式の椅子より可動式の椅子で夏は木陰、冬は日向のような市民が利用しやすくなる根本的な仕掛けが必要。公園は人が楽しむところ、人中心で、公園と人との関係をここで作っていくような表現がよい。(高山委員)</p> <p>○日常の空間として何か窓口があったらとよい。ここが目的地でまた街にでかけるということを組み合わせる。常にイベントをしていなくても公園から情報発信をして呼べば何かあるみたいなそういう繋がりを入れたい。(渡部座長代理)</p> <p>○防災機能の確保、非常事態に対応することを入れた方がよい。(渡部座長代理)</p> <p>●空間・施設整備の方針</p> <p>○エリアビジョンでは仙台の「庭」、本構想では「広場」。エリアビジョンの概念が変わらないように整理できれば良い。(渡部座長代理)</p> <p>○回遊性を考えると一番町との連続性が必要。できればつなぎ横丁も、歩行空間をもう少し公園的な整備の仕方をして、一体に整備することによって一番町と繋がって回遊性を高められる。(高山委員)</p> <p>○「新庁舎建替え」の情報を入れ込むとつなぎ横丁とにぎわいの広場と新庁舎の軸、表小路も含めて重要になってくる。計画範囲はつなぎ横丁の辺り、表小路まで入れ、どういう道路空間がいいかという計画にした方よい。(姥浦委員)</p>	<p>○利用シーンについて、登場人物がみんな優しく、かわいく、いい人ばかり。広場はそれだけじゃなく、政治的闘争の広場でもあり、民主主義のための空間でもある。それらを引き受ける空間が都市には必要で、仙台ではここだと思う。怒っている市民のハードな市民協働も中に入っていた方がよく、優しすぎる言葉遣いからもう少し強めの言葉を入れてもよい。(本江座長)</p> <p>○パークマネジメントについて、広場の使い方、創り方をどう一体的に構築していくのか、そのための組織をどう作っていくのかということを書いてほしい。(姥浦委員)</p> <p>○歴史の広場といこいの広場の地形をつなぐことが大事。4ページは横断的な整理が必要。(渡部座長代理)</p> <p>○空間のチャンスとして小さなイベントを拾うことがある。同時多発にいろんなイベントが起きると滞在時間が増えていく。(岩間委員)</p> <p>○カフェがあつてにぎわうとタバコも吸いづらくなる。売店のリニューアルではなくもっと踏み込んでご提案した方がよい。(高山委員)</p> <p>○本庁舎の建替え事業と一体的な広場をつくるには、にぎわいの広場で行われる青葉まつりなどの南側場から新庁舎への方向と、新庁舎で政策等を議論するだけでは収まらない部分が南側へ出てくる方向の二つの意味・方向性がある。(姥浦委員)</p> <p>○地下鉄駅の入り口の向き、形状についての言及があつてよい。(本江座長)</p> <p>○公園は健全で優しくてかわいいことしか起こらないわけではない。活動の厚み、深み、その活動の広がりやを一定程度共有するような場所。明るくて楽しい健全な場所は、排他的な構えを作り出すことにもなる。公園はパブリックスペースとして最後の砦。仙台で一番大事なパブリックスペースでいろんなことをやっていた場所としての矜持、覚悟が含まれてしかるべき。(本江座長)</p>